海外普及を積極化

コンクリート工業の耐震継手工法「TB（タッチ）」で採用され、このほど施工が完了した。同工法事と、韓国の舒川郡での排水路工事。中国では、山東省の青島での施工も計画されている。同社はTB注入工法およびTBコーキング工法の特許を中心に工法の海外普及に取り組んでいく。

工法に関する遼寧省と山東省での技術信託契約を締結し、同社を通じて工法に必要な接着剤などの材料を輸出した。第1期工事は6月から行われ、2000ミリ×2000ミリのボックスカルバートを100㍍施工した。第2期工事は7月に予定されており、同サイズのボックスカルバートを300㍍施工する。

韓国では排水路工事に同工法を適用。コーキングガンによる施工のため接着剤の充てん状況が目で確認できるなど施工管理のしやすさが採用につながった。延長は2000ミリ×1500ミリが137・8㍍で、1500ミリ

TBコーキング工法は、4000ミリ×3000ミリを超えるボックスカルバートや、ボックスカルバートの頂版上で作業ができない現場、推進工法などの特殊工法にも適用できるほか、U型・L型水路での実績も増加している。

し推進を行った韓国では、4～5年前から雨水貯溜槽「アグア」に関し同国企業と技術信託契約を締結し普及に努めており、すでに2基の実績がある。TBコーキング工法に関しても2年前に技術信託契約を締結した。

TB工法は、ワンタッチジョイントによりボックスカルバートなどを接続し、高弾性接着剤によって接着接合する耐震継手工法。伸び能力に優れた接着剤「TBボンド」により連続性、水密性に優れ、レベル2地震動による地盤の変位にも追随できる耐震性を有している。施工法は、ボックスカルバートの頂版上から接着剤を注入するTB注

率42％
計で最高

よりインフラの点検・診断に活用できる技術に関して40件の現場施工を実施するとともに、「工事成績評定における未評価技術活用の評価」などの取り組みを通じて新たに229の未評価技術を評価し活用促進を図った。

また、国交省では評価を行った新技術のうち、公共工事等における幅広い活用や飛躍的な改善効果が期待できる画期的な技術を「推奨技術」、さらに発展が期待される技術に関しては「準推奨技術」として選定する。

14年度は、推奨技術として11技術、準推奨技術として18技術を選定。このうち、セメント・コンクリート関連では、ガラスクロス付き連続繊維FRP格子筋（トウメッシュ）を用いたコンクリートの剥落防止工法「FORCA（フォルカ）トウメッシュ工法」（KK－060042－V）が推奨技術に選ばれるとともに、ガードレールの設置に利用するプレキャスト製ブロック基礎「プレガードⅡ」（SK－060003－V）、コンクリート舗装面のわだち掘れや段差、欠損部を補修する耐摩耗性薄層舗装材「ドーロガード」（KK－980027－V）などが準推奨技術に選定されている。

にきく

どが指摘されるが、その一面だけが原因とは考えどは施工前に防草処置を施すだけでメンテナンス

端部の溝加工を省略
ノンスリットタイプ追加

ノザワ

ノザワはこのほど、押出成形セメント板「アスロック」の2次防水工法「ニューセフティ縦張り工法」に、内水切り金物を挿入するパネル端部の溝加工が省略できる「ノンスリットタイプ」を追加した。中低層オフィスビルや商業建築、公共施設などを対象に14年度は5万平方㍍の販売を目指す。

ニューセフティ縦張り工法ノンスリットタイプは、専用形状の特殊機能ウレタンフォームガスケットをパネル横目地部に挿入することで、内水切り金物をパネル端部に差し込まなくても雨水が内部に侵入することなく最下部まで導かれて外部に排出されるようになっている。

パネル端部に内水切り金物を差し込むための溝加工が不要になったことで現場作業の省力化につながるとともに、加工に伴う粉塵も抑制され現場環境を大幅に改善している。止水性能は既存のニューセフティ工法と同等の最大圧力3000Paをクリアしており、価格も同じ。1平方㍍あたり1980円（税抜）。

ニューセフティ工法は、アスロックの外部シーリングが劣化・破損しても特殊ウレタンガスケットにより、水の浸入を防ぐことができる2次防水工法。縦張り工法と横張り工法の2種類をラインアップしており、高い止水性能が特徴。最大圧力3000Pa、1平方㍍あたり約300㌔㌘相当の風でも内部への漏水のないことを確認している。

確保などを目的に無電柱化を推進する方針だ。つる。ここでもILブロックのもつ様々な機能性が

前年比1.8倍の実績

防草ブロック工業会総会

全国防草ブロック工業会（矢野明正会長）は6月27日、名古屋市内のホテルで第3回総会を開催、すべての議案を審議、原案通り承認した。

次世代ブロックの「防草ブロック」（NETIS登録番号CB－050041－V）は、これまで国や市町村などが行ってきた道路の除草・防草対策が不要になり、その対策費用や維持費用がゼロになる事から注目を集め、13年度の発注件数は前年度比1・8倍となった。

防草ブロック技術は、芽や茎は上に、根は重力方向へ成長するという植物が持っている自然の性質を利用したもの。ブロックに下向きの切り込みを施すだけで、植物が自ら成長を止め、最終的には腐り、再び生えてくることがない。毎年の除草メンテナンスや道路10㌔㍍に付き約150万円程度かかる草刈作業が削減でき、新設時の防草テープやシート、薬剤などの防草資材が一切不要となる。同技術は昨年度「環境賞」を受賞したことにより、今後さらに普及していくものと期待されている。

同工業会は、今期から技術委員会を設置し、名古屋大学生物機能開発利用研究センターの北野英己教授と共同研究体制を整え、より一層の技術品質向上を目指す。

また、今期からグレーチングメーカーの石田鉄工（三重県、石田昭三社長）が加入、グレーチング製品による防草製品（製品名＝防草エレファンドレン）を発表した。同社の製品開発・技術力は高く、今後防草ブロック製品とコラボした製品開発も計画している。

（同工業会問い合わせ先：事務局TEL0565・43・3700、井浦氏）

の一部に採用された」

「最近は人手不足が社交通情報通信システムセンターを経て現在にいたる。趣味はゴルフ。鉄道

花村氏が社長に

ホクコン

花村進治氏

福井県のコンクリート製品メーカー、ホクコンは6月27日に取締役会を開き、同日付で花村進治取締役専務執行役員の代表取締役社長昇任を決めた。総合企画本部長は引き続き兼務する。小林志伸社長は代表取締役会長に就任した。

花村氏は、1957年6月8日生まれ。80年4月に同社に入社し、2006年に取締役生産本部長兼兵庫工場長、08年に取締役執行役員総合企画本部長、10年に取締役常務執行役員総合企画本部長、13年に取締役専務執

勤勉な研修生に期待

ヤマウ会長
権藤勇夫

5月にインドネシアの企業とMOUを締結し、同国でインフラ整備事業を通じてコンクリート二次製品の普及を進める考えを表明したヤマウ。同社では、3年前からインドネシアの研修生を受け入れている。

「現在25人受け入れており、各工場に3～5人ずつ配置している。日本の文化への関心も高く、休日にはお祭りなどの行事に参加するなど地域にも溶け込んでいる。同社が毎年日本語などの教育を受けた上で派遣されて参加するほどの熱の入れようだという。

「研修生は、みな勤勉で仕事にも熱心に取り組んでいる。日本に来た目的もしっかりしているし、意識が高い。ぜひ日本の文化に触れてもらい、良い印象を持ってほしい」